

日本グループ・ダイナミックス学会の会報／第9号

1996年11月22日

(第9号)

発行所/奈良市山陵町1500 奈良大学社会学部（矢守研究室） 日本グループ・ダイナミックス学会

発行人/杉万俊夫

編集担当（代理）/矢守克也

編集担当の大坊先生は、現在、在外研究のため英国に滞在中です。そういうわけで、今回（のみ）、私が代理を務めます。題字、レイアウトなど、安普請の感が拭えませんが、重要なインフォメーションが満載されています。是非、ご一読下さい。また、今回のニュースレターは、会員の皆様に、重要な情報をできる限り早くお伝えすべく編集・発行を特に急ぎました。そのため、会員異動、地区別の研究会などに関する記事は、次号にまとめて掲載したいと思います。ご容赦下さい。（克）

★★★日本グループ・ダイナミックス学会第45回大会★★★

アジア社会心理学会第2回大会のご案内

日本グループ・ダイナミックス学会の1997年度年次大会を、アジア社会心理学会第2回大会とのJoint International Conferenceとして、下記の要領で開催します。発表論文の中から優れた論文を審査選択し、「Advances in Asian Social Psychology (vol.2)」を編集、Wiley社から出版する計画もあります。多数の方々のご参加をお待ち申し上げます。

京都大学総合人間学部

杉万俊夫・北山 忍

記

1. 日時 1997年8月4日（月）-6日（水）
2. 場所 国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）
3. 参加費（会員・非会員の別なし；一般・学生の別なし）
日本人および欧米からの参加者 20,000円
日本を除くアジア各国からの参加者 5,000円

*日本人の参加費納入方法

郵便局備え付けの振替用紙を用いて、お振り込み下さい。

口座番号 01050-8-82702

口座名称 人間情報論分野

納入期限

発表者 1997年3月31日

発表者以外 1997年7月20日

(大会当日の受付業務簡素化のため、参加費の事前の振り込みにご協力下さい。)

4. 発表申し込み

発表は、原則として、英語とします。発表形式は、口頭発表とポスター発表の2つがあります。口頭発表会場には、OHPを用意します。

発表希望者は、次の3点を、3月31日(必着)までにお送り下さい。

(1)英文要約原稿(書式は次項を参照;折らないで下さい)

(2)発表申し込み票(A4の用紙に以下の事項を記入したもの)

(a)氏名

(b)連絡先住所・電話・FAX・e-mail address

(c)発表者・発表題目(いずれも英語表記)

(d)口頭発表・ポスター発表の別

(3)官製はがき(あるいは、切手を貼付した私製はがき)

要約受け取りの確認に使用します。表面には、発表申込者の住所・氏名を記入して下さい。また、裏面の上半分に、発表者名・発表題目を記入して下さい。

5. 英文要約原稿の作成要領

A4の用紙(1枚)を用いて下さい。原稿を、そのままのサイズで写真に撮り、要約集に掲載します。

原稿は、次の例にしたがって作成して下さい。必ず、用紙の上端および下端から20mm、左端および右端から15mmの余白をとって下さい。なお、本文の部分については、字の大きさ、行数、図表のサイズ等に制約はありません。

要約原稿の例

6. ----- 用紙の上端 -----

7.

8. (20mmの余白)

9.

10. A Study on Determinants of Success of an International Conference

11.

12. Naoko IIJIMA¹ and Takuya KIMURA²

13.

14. An intensive participant observation was carried out to investigate

15. the organizing processes of an international conference that was held

16.

17.

18. (左端および右端に15mmの余白)

19.

20.

21. was discussed. Based on the present study, it was predicted that the

22. forthcoming 1997 Kyoto conference cosponsored by JGDA and AASP would be

23. highly productive and immensely successful.

24.
25. ----- 本文と脚注（所属欄）の区切り線 -----
26.
27. 1)Department of Psychology, Daimonji University, Higashi-ku, Kyoto,
28. Japan (e-mail: iijima@psych.daimonji-u.ac.jp).
29. 2)Department of Human Sciences, Daibutsu University, Nara, Japan
30. (e-mail: kimura@human.daibutsu-u.ac.jp).
31.
32. (20mmの余白)
33.
34. ----- 用紙の下端 -----
35. シンポジウム・ワークショップの企画
いくつかの口頭発表セッションを、シンポジウム形式で行います。時間は、2時間です。なるべく、多数の国からの参加者を含めた企画をお願いします。
ワークショップは、大会中の午後5時以降の時間帯、あるいは、大会後に、少人数で行うものとします。
シンポジウム、ワークショップの企画は、2月末日までにお寄せ下さい。なお、シンポジウムにおける発表についても、上記の要領で英文要約を提出していただきます。
36. 発表申し込み・問い合わせ先
JGDA/AASP 国際会議事務局
606-01（郵便番号のみ） 京都大学 総合人間学部 人間情報論分野
Tel 075-753-6564（杉万） 075-753-6557（北山）
Fax 075-753-6559
e-mail aj1997@hi.h.kyoto-u.ac.jp
最新情報は ホームページ <http://www.nacos.com/JGDA/>

▼▼AJSPの刊行準備状況と本学会の財政事情について▼▼

会長 杉万俊夫

先の役員選挙におきまして、もう1期、会長を務めることになりました。前期からの懸案事項であります、英文誌の国際化を中心に、常任理事、理事の先生方のご協力を得て、全力で取り組んで参りたい所存です。どうぞ、よろしくご支援のほど、お願い申し上げます。

さて、Asian Journal of Social Psychology(AJSP)の刊行準備状況と本学会の財政事情につきましては、広島大学における今年度総会の中で詳しく説明致しましたが、非常に重要な事柄ですので、ここに、あらためて説明することにします。

（1）本学会の財政事情について

昨年度（1995年度）は、決算書に記載のとおり、約60万円の剰余金を次年度に繰り越すことになりました。しかし、ご注意いただきたいのは、これは、会費の長期滞納者に対する督促の結果、約130万円の収入があったこと、また、大会主催校（学習院大学）から30万円のご寄付をいただいたこと、すなわち、合計約160万円の臨時収入があったことによるものであるということです。つまり、もし、このような臨時収入がなかったならば、剰余金どころか、約70万円の赤字が出ていたわけです。本学会の財政は、すでに、昨年度から大ピンチに立たされているわけです。

もちろん、支出を削るために、機関誌の頁数を削ることも一案ではあるでしょう。現在、幸い

にも、数多くの投稿論文に恵まれ、また、審査をパスした論文については、なるべく速やかに掲載するという方針で、機関誌を作成しています。この姿勢は、極力、堅持していきたい所存です。しかし、そうする以上、値上げの幅や時期の詳細は別として、近い将来に会費を値上げすることは、避けて通れないという事情にあることを、ご理解いただきたく存じます。

しかし、ご記憶のとおり、本学会は、私が2年前に会長の任につきましたときに、50%の会費値上げを行なったばかりです。また、その折りに、私は、英文誌の国際化を公約致しました。この点を十分銘記し、私が2期目の会長を務めます、もう2年間は、現行の会費に据え置き、その間に、英文誌国際化に道筋をつけたいと思います。そして、しかる後に、あらためて、会員の方々に会費の値上げをお諮り致したいと考えています。

(2) AJSPの刊行準備状況について

昨年度の総会におきまして、本学会の英文誌を発展的に解消し、アジア社会心理学会との共同で、AJSPを刊行することをご承認いただきました。その後、アジア社会心理学会の中心メンバーとともに、刊行準備に努力してきました。当初は、実社心研と同様、自前の印刷、出版を前提として、準備を進めていましたが、そこに、いくつかの国際的出版社から、AJSP出版の引き合いが飛び込んできました。それらの出版社は、いずれも、各種の心理学関係の国際的ジャーナルをてがけている、定評ある出版社ばかりでした。

できることならば、AJSPを国際的出版社から出版し、世界的にdistributeしたいというのが、私、また、アジア社会心理学会中心メンバーの希望です。しかし、国際的出版社にとって、AJSPの出版は、あくまでもビジネスですから、自前の出版に比べれば、多くの経費が必要になります。また、international journalの常識として、なるべく早期に、年4冊の刊行（すなわち、quarterly）にすることが要件となってきます。有力候補となりつつある出版社が2社（WileyとBlackwell）ありますが、当初、本学会およびアジア社会心理学会会員向けの1年（1 volume）当たりの価格として、40ドル、ないし、それ以上の価格が提示されました。現在、なんとか30ドルの線（当初は年3冊でスタートするが、その後、quarterlyになっても30ドルという線）まで下げることで、出版社との合意が成立する見込みが立ちつつあります。

AJSPを国際的出版社から出版することは、もう一つの点においても、本学会の財政を厳しくします。すなわち、従来、本学会は、機関誌の大学図書館向け販売を学会事務センターに委託し、1冊3,500円で、200以上の図書館に販売してきました。そして、本学会は、学会事務センターからのバックマージンとして、1冊当たり60万円（年間3冊で合計180万円）の収入を得てきました。しかし、AJSPを国際的出版社から出版することになりますと、定期購読者（図書館）から見れば、JPSPやJESPといった海外のジャーナルと同様の取扱いになるわけですから、本学会が、学会事務センターに図書館への独占販売権を与え、バックマージンを得るということも不可能になります。したがって、従来のバックマージン収入180万円のうち60万円は、放棄せざるを得ないということになります。来年度（1997年度）予算案において、雑誌定期購読収入が、120万円しか計上されていないのは、このためです。

次に、AJSPを上記の国際的出版社から刊行する場合の、刊行スケジュールについて説明します。出版社の説明によりますと、出版社は、すでに、来年（1997年）に向けてのPRを開始しており、ビジネス的判断からすれば、AJSPの刊行は再来年（1998年）からにせざるを得ないということです。しかし、これでは、昨年度（1995年度）に、実社心研英文号の最終号を出してから、2年間の空白が生じてしまいます。しかも、来年には、京都において、本学会の年次大会とアジア社会心理学会の第2回大会を合同で開催することになっています。京都会議の前に、ぜひ、創刊号を刊行したいというのが、私どもにとっての強い願いです。

そこで、出版社との交渉の結果、有力な妥協案として浮上している案について説明します。そ

れは、若干、変則的ではありますが、AJSPのvolume 1 (3 issues)は、1998年に刊行するが、no.1 (創刊号)を、約半年早めに、来年(1997年)の京都会議までに刊行するという案です(おそらく、no.1の出版日付は、1998年1月になると思われます)。no.2とno.3は、再来年(1998年)の刊行となります。1999年からは、年3冊、ないし、4冊の刊行となります。

したがって、今年度(1996年度)は、英文誌を刊行しないことになりますので、当初予算に計上してあった、英文誌刊行費用80万円は支出しません。しかし、本年6月に刊行しました実社心研(第1号)の厚さ(約180頁)は、通常の約2倍の厚さであり、それによる支出増は、英文誌を刊行しないことによる支出減を相殺してしまいます。また、英文誌を刊行しないことにより、大学図書館からの定期購読収入は、60万円の減となります。

1998年に刊行されるAJSPのvolume 1 (no.1は1997年に刊行)に対しては、合計160万円(1997、98年度に80万円ずつ支出)の支出を予定しています。しかし、この支出額は、会員一人当たりの支出に換算しますと、約2,000円(20ドル弱)であり、先に述べました、AJSPの(見込み)価格30ドルを下回っています。この不足分については、アジア社会心理学会の中心メンバーたちの努力によって集められたfundに頼ることになります。このようなfundへの依存をなくすためにも、1999年のvolume 2からは、会費の値上げによって、本学会の自活体制を整えねばならないと考えます。

(3) 今後の財政的対応策について

以上をまとめますと、

①現在の実社心研の編集方針(機関誌を厚くしてでも、速やかな掲載を優先するという方針)を堅持する限り、現在の収入では足りないこと、

②AJSPを国際的出版社から刊行する場合、定期購読(図書館向け販売)による60万円の収入を放棄せざるを得ないこと、

③AJSPの本学会ならびにアジア社会心理学会会員向けの価格(30ドルを予定)を支払えるような体制をつくらねばならないこと、

に、対応しなくてはならないこととなります。その際、私が会長を務めます1998年度年次大会までの期間は、値上げをせず、かつ、AJSP刊行に道筋を立てたい所存であることは、すでに申し上げたとおりです。

そこで、私は、次のような案を、本年度総会にお諮りしました。

①本学会は、三隅先生を中心とする常任理事の先生方のご尽力の賜として、約120万円の基金(基本積立金と特別出版基金:昨年度決算書を参照)を受け継いでいます。そこで、苦肉の策として、今年度(1996年度)から3年間、毎年40万円ずつ基金を取り崩し、各年度の収入に繰り入れることによって、収入不足を補いたいと思います。

②従来、実社心研掲載論文については、著者からは、一切、掲載費用を取っていませんでした。そこで、これまた、苦肉の策ではありますが、刷り上がり10頁を越える論文については、超過分(11頁目から)に対して、1頁につき1万円の著者負担をお願いしたいと思います。1万円という額は、現在の機関誌印刷費用の頁当たり単価に相当する額です。しかし、このことは、同時に、論文の頁数に機械的な制限を設けないという、従来の編集方針を維持するということでもあります。著者の方には、誠に恐縮ですが、若干の受益者負担をお認めいただきますようお願いいたします。(この著者負担を前提に、来年度(1997年度)予算案における機関誌(実社心研)印刷費を、今年度予算を下回る200万円にとどめました。)

以上、複雑な事情を説明しましたので、最後に、一覧表のかたちで、今後の対応策をまとめておくことにします。

AJSPの刊行

AJSPへの支出

基金の取り崩し

1996年度 英文誌は刊行しない なし	40万円
1997年度 vol.1(no.1)	80万円 40万円
1998年度 vol.1(no.2 & 3)	80万円 40万円
1999年度 vol.2(3 or 4 issues)	会員 1 人当30ドル

以上の案につきまして、ご質問、ご意見をお持ちの方は、どうぞ、事務局までお寄せ下さい。
会員各位のご理解を、よろしくお願いします。

▼▼ 総会報告 ▼▼

先日（10月27日）、本年度の会員総会が実施されました。出席者は、126人でした。定足数に達しませんでしたので、仮総会となりました。規定により、会員の過半数から文書による反対が、議事録の通報後一ヶ月以内に寄せられない場合、以下の議事録が決議としての効力をもつこととなります。

日本グループ・ダイナミックス学会
1996年度理事会（編集委員会）報告

日 時:1996年10月25日 16:00-18:00

場 所:広島大学東講義棟L102号教室

【報告事項】

1. 会員動向について

本年9月末の会員総数が777名であること、年度始めからの新入会員が32名であることが報告された。

2. 1996-98年度役員選挙の結果について

（本ニュースレター掲載の記事をご参照下さい）

3. 「実験社会心理学研究」掲載論文のFD入稿について

印刷入稿時に、FD入稿を開始しているので協力をしてほしい旨の報告があった。

4. 「実験社会心理学研究」の審査状況・編集・刊行について

36巻1号は、通常より大幅に増ページして刊行した。論文16編を掲載した。また、36巻2号には、論文8編を掲載予定であり、現在、初校を作成中である。

5. 「研究奨励賞」の選考状況について

合計6編の候補論文について選考作業が進められており、選考委員会で最終選考が行われる予定であることが報告された。

6. ニュースレターの発行について

本年度は、第8号を発行した。次号は、総会議事録、選挙結果を中心として、年内に発行する予定であるとの報告があった。

7. 会員名簿の発行について

11月末に刊行予定であるとの報告があった。

8. ホームページについて

機関誌掲載論文の要約、大会情報などを内容とするホームページを設置したとの報告が

あった。

【審議事項】

1. 諸学会連絡会議との関係について
これまでの審議の経過を踏まえ、同会議から脱会することも選択肢の一つとして、今後（常任）理事会、総会で意見を集約していくこととなった。
2. 1995年度事業報告と決算・会計監査報告
別紙（資料1）の通り報告があり、審議の結果、原案通り了承された。なお、過年度会費の大幅増による収入増のために次年度繰越金が生じているが、実質的には大幅な支出過多であり、財政状態は予断を許さないとの報告があった。
3. 第43回大会（1995年度大会）会計報告
中村大会委員長より、別紙（資料2）の通り報告があり、審議の結果、原案通り了承された。
4. 第45回大会（1997年度大会）について
アジア社会心理学会との合同大会として、1997年8月4日～6日の3日間、京都国際会議場で開催することが提案され、承認された。
5. 1996年度事業と予算執行経過報告
6. 1997年度事業計画案と予算案について
7. アジア社会心理学会との連携について（AJSPの発行について）
8. 機関誌（和文誌）掲載論文の超過ページ印刷費用の著者負担について
相互に関連する、以上の4つの案件について、一括して審議した。

まず、議論の前提として、AJSPの準備状況について報告があった。AJSPは、世界的な販売網をもつ海外の出版社から出版する方向で検討中であり、現在、Blackwell、Wileyの2社を最終候補として折衝を行なっている。現在のところ、第1巻（1～3号）を1998年付で刊行する予定である。ただし、第1巻1号は、アジア社会心理学会との合同大会（審議事項4を参照）が開催される1997年8月に前倒しで刊行する予定である。第1巻3冊刊行のために、GD学会が拠出する予算は、\$140（約160万円）とする。これらは、97、98年度に80万ずつ計上する（96年度予算からは英文誌経費は拠出ししない）。第2巻以降は、会員1人あたり、年間\$30（約3500円）程度が必要となる見込みである。

このため、少なくとも1999年度以降は、会費値上げが、その規模は別として必至である。また、それ以前の96～98年度についても、（a）すでに95年度決算において、財政状況が悪化していること（審議事項2を参照）、（b）国内研究の活性化を図る、との方針のもと、95年度より和文誌を大幅に増ページしたこと、（c）英文誌の刊行形態・スケジュールの変更により、国内図書館の定期購読分の販売を委託していた学会センターとの契約内容を変更する必要があるが生じる。これに伴い、事務センターからの収入が約60万円減少すること--これらの理由から、何らかの予算措置が必要である。

そこで、96～98年度については、会費の値上げを回避するため、（a）基本積立金（約12万円）、特別出版基金（約109万円）の合計約120万円を、40万円ずつ取り崩す、（b）和文誌に掲載される論文について、刷り上がり10ページを超える論文については、超過分1ページあたり1万円（現在の印刷単価に相当）を著者に負担してもらう--以上の2つの対策を講じる。掲載論文のページ数に関する最近のデータによれば、後者の措置により、学会には年間30万円程度の収入が見込まれ、和文誌の年間予算を200万に抑えても、現在のページ数をほぼ維持できる。

以上を踏まえ、すでに執行中の96年度予算の執行方針に関する修正案（資料3）、およ

び、97年度予算案（資料4）が提案され、審議の結果、原案通り承認された。

9. 「臨床心理士資格認定協会の大学院指定を考える会」について

表記に関するアピール文が、学会事務局に寄せられた。重要な問題ではあるが、理事会として早急に結論を下すことは避け、ホームページ上でアピール文を広く会員に公開し、意見を募ることにした。

▼▼ 「研究奨励賞」が決定!! ▼▼

本年度の「研究奨励賞」は、坂元 章・三浦志野・坂元 桂・森 津太子、以上4氏の連名になる「通俗的心理テストの結果のフィードバックによる自己成就現象-女子大学生に対する実験と調査-」に決定しました。まず、規定に従って選ばれた6編の論文の中から、選考委員による一次選考によって候補論文3編が絞り込まれました。さらに、本年度年次大会の前日に開催された選考委員会（古畑和孝選考委員長）において、表記の論文が選出されました。また、本年度の総会終了後、受賞論文の紹介、および、選考経過について、古畑選考委員長からの説明がありました。

▼▼ 5名の先生が、新たに名誉会員に ▼▼

本年度、新たに、猪股佐登留、岡村二郎、小川一夫、岸田元美、橋本仁司（50音順）、以上5名の先生が、名誉会員に推戴されました。総会終了後、推戴状の授与式が執り行われました。岡村二郎、小川一夫の両先生は、あいにく所用のためご欠席でしたが、猪股佐登留、岸田元美、橋本仁司の3先生には、ご出席を賜わり、お言葉を頂戴しました。名誉会員の先生方には、今後とも、学会の運営を見守っていただき、アドバイスを頂戴したいと願っています。

▼▼ 1996-98年役員選挙の結果 ▼▼

○有効投票総数 202（有権者総数758、有効投票率26.6%）

北海道 15 東 北 8 関 東 39 中 部 31

近 畿 53 中四国 21 九 州 28 沖 縄 4

○会 長 (194)

当 杉万 俊夫 98 次 大坊 郁夫 36

○地区別理事

・北海道 (15)

当 大坊 郁夫 7

次 篠塚 寛美 3

・東 北 (8)

当 大瀨 憲一 4
次 4 名 1 [菊地章夫、田名場忍、飛田操、堀毛一也]
・関 東 (39)
当 安藤 清志 5
当 池田 謙一 4
次 4 名 2 [相川充、木村純、藤森立男、宮田加久子]
・中 部 (31)
当 吉田 俊和 17
次 広瀬 幸雄 3
・近 畿 (53)
当 金児 暁嗣 17
当 外山みどり 5
次 2 名 4 [高田利武、ハッ塚一郎]
・中四国 (21)
当 深田 博己 11
次 吉森 護 3
・九 州 (28)
当 関 文恭 12
次 3 名 3 [佐藤静一、鈴木康平、原岡一馬]
・沖 縄 (4)
当 東江 平之 3
次 棚原 健次 1
○全国区理事 (40歳未満票+一般票+会長選票)
当 矢守 克也 68 (63+ 3+ 2)
当 黒川 正流 45 (0+18+27)
当 竹村 和久 35 (31+ 4+ 0)
当 亀田 達也 27 (24+ 3+ 0)
当 長田 雅喜 26 (0+26+ 0)
当 北山 忍 25 (18+ 7+ 0)
当 高木 修 21 (0+21+ 0)
当 山口 勸 20 (0+12+ 8)
当 渥美 公秀 20 (19+ 1+ 0)
次 2 名 19 [浦 光博、鈴木康平]
○会長指名理事
古川 久敬 山本真理子
○監 査
当 村田 光二 10
当 篠原しのぶ 8
次 古畑 和孝 8 (抽選による)
○常任理事選挙 (理事による互選)
当 黒川 正流 12
当 矢守 克也 11

当 大坊 郁夫 8
当 山口 勸 7
次 2名 6 [安藤清志、山本真理子]

○会長指名常任理事

外山みどり 山本真理子

▼▼ 機関誌の超過ページ印刷経費の著者負担について ▼▼

本ニュースレターの中でも、「AJSPの刊行準備状況と本学会の財政事情について」「総会報告」の2つの記事でレポートされていますように、本年度の総会の議事が承認され次第、機関誌に掲載の論文の印刷経費の一部について、著者に自己負担していただくことになります。苦しい財政事情という厳しい現実と、「できる限り多くの論文を早く掲載する」という従来の方針とを整合させるための窮余の一策です。会員各位のご理解とご協力をお願いします。具体的に、対象となる論文は、以下の通りです。

①37巻1号以降に掲載される論文（論文種別は問わない）

②刷り上りが、11頁以上の論文（レビューの過程で、論文が長くなった場合も含む）

以上の場合、超過ページ1ページにつき、1万円を自己負担いただくことになります。例えば、刷り上り14ページの論文の著者には、4万円をご負担いただくことになります。なお、刷り上り1ページの容量は、約2250文字（文字だけの場合）です。

▼▼ 本年度大会（第44回大会）、盛会のうちに終了! ▼▼

黒川正流大会委員長、浦光博先生、坂田桐子先生をはじめとする、スタッフの方々のご尽力により、盛会のうちに終了しました。スタッフの皆さん、アグレッシブ、かつ、ハートフルな大会をありがとうございました。なお、2件の発表取消の報告が、大会事務局より寄せられましたので、ここに掲載いたします。

①「個人事態と集団事態におけるリスク判断の日米比較」

（山口勸・Michele Gelfand・水野恵・膳場百合子）

②「台湾企業の組織体におけるリーダーシップと組織風土に関する一研究」

（恵晶・三隅二不二）

学会関係連絡先一覧

◎入退会、住所・所属等変更、会費納入、機関誌・ニュースレターの未着

日本学会事務センター大阪事務所（担当:大戸）

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル14階

電 話 06-873-2301 FAX 06-873-2300

◎投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見

奈良大学社会学部矢守研究室

〒631 奈良市山陵町1500 奈良大学社会学部

電 話 0742-41-9559 電話/FAX 0742-43-6374

E-mail: pxf04242@niftyserve.or.jp (矢守)

◎ニュースレターの編集、記事の投稿

北星学園大学文学部大坊研究室

〒004 札幌市厚別区大谷地西2-3-1 北星学園大学文学部

電 話 011-891-2731(内線463)

FAX 011-894-3690

E-mail: daibo@hokusei.ac.jp/mah02332@niftyserve.or.jp (大坊)

◎機関誌のバックナンバー購入、図書館等での機関誌購入

日本学会事務センター事業部 (担当:田代)

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21

電 話 03-5814-5811 FAX 03-5814-5822

◎ホームページ <http://www.nacos.com/JGDA/>